

概要説明書

評価・提案テーマ		環境問題		担当局・部名	市民・厚生部				
				担当課・係名	市民生活課環境創造室				
協議内容		ゴミの適正な分別の推進		役職	主幹				
				作成者	小林 勝之				
政策実施の背景		市町村が全面的に責任を担っていた容器包装廃棄物の処理を、消費者は分別して排出し、市町村が分別収集し、事業者は再商品化するという、三者の役割分担を決め、三者が一体となって容器包装廃棄物の削減に取り組むことを義務付けられた。							
目的 (何をどうしたいのか)		家庭から排出されるごみの重量の約2～3割、容積で約6割を占める容器包装廃棄物について、リサイクルの促進等により、廃棄物の減量化を図ると共に、資源の有効利用を図る。							
市取組例	取組事業名	①環境美化協力委員の委託 ②環境美化協力委員の研修会 ③資源化物の円滑な回収・再利用システムの確立							
	取組内容	<p>【①環境美化協力員の委託】 自治会の組につき1名委託される。協力員はごみステーションの清掃、不法投棄の監視・報告を行う。平成26年度は571名。</p> <p>【②美化協力員研修会】 地域ごとに研修会を計8回実施。ごみの分別方法等について研修を行う。</p> <p>【③資源化物の円滑な回収・再利用システムの確立】 ・ごみと再資源化の分け方・出し方のわかるパンフレット等を配布</p>							
	取組における課題	地域や年代によって、ごみ出しの基本的ルールや分別収集等に対する意識に差異がある。							
コスト		26年度（予算）		25年度（決算）		24年度（決算）		23年度（決算）	
	事業費	490,278千円		497,701千円		481,322千円		462,631千円	
	主な事業費内訳 (平成25年度分)	大月都留広域事務組合負担金							
事業実績	活動実績	【活動指標名】			単位	H25年度	H24年度	H23年度	
		ごみと再資源化物のパンフレットの作成 (大月都留広域事務組合)			枚	16,000	16,000	16000	
		美化協力員研修会			人	247	294	275	
特記事項		<ul style="list-style-type: none"> 引越時期の文大生のゴミ出しマナーが悪い。 都留市の分別項目はそれほど細かいくない。 分別項目を増やせば、それだけで回収費用等が多くなる。 							